



令和7年
8・9月

学校だより

心ゆたかに かしこく たくましく
～ 自律・感謝 ～

さいたま市立大砂土東小学校
Tel 048(684)8003
令和7年8月27日発行

教員の実態

校長 石川 顕一



▲ 夏季休業日に研修

酷暑の夏休みでした。一方で大雨のせいで大きな被害を受けたところもありました。この異常な天候に遭遇すると、この先の地球上で生きていく子どもたちのことが心配になります。また、終戦80周年の年を迎える中、他の国や地域では依然として紛争が続いています。子どもたちが活躍する近い未来が平和であるために、私たち大人は何ができるか考えさせられた夏休みでした。

さて、朝の職員室には、教職員から、本人や家族の体調の不良による欠席遅刻の連絡が入ります。また、日によっては多くの先生方が校外の研修会に参加します。さらには、「子どもたちが落ち着かないから様子を見てほしい。」との要望も挙がってきます。そこで、学校では、学級を担当していない教員、空き時間（他の教員が自学級の授業をしている）の教員、教頭・校長と、総がかりで各学級のサポートに当たっています。一日中どこかのクラスにいて、職員室の机に戻るのは夕方という日も珍しくありません。この多忙を極める働き方は増える傾向にあります。

学級へのサポートは、お互い様とはいえ、自学級の子どもたちへの関わりが薄くなってしまいます。他学級を見ている間に、自学級でトラブルが起こらないか不安です。給食の時間や掃除の時間に見せる子どもの小さなサインを見逃しかねません。また、空き時間は、授業の準備をしたり、学習状況进行评估したり、気になる子の様子を振り返ったりすることができる貴重な時間です。

教員みんなは、「何とかやっているけれど、毎日綱渡り」というのが実感です。私たち教員は、子どもの成長を支えるために仕事をしていますが、あの子ともう少し話がしたい、この子の様子を見守りたい、そう思っても時間が取れない。こんなもどかしさを感じるが増えています。

このような状況を同情してほしいということではありません。学校の実情を知っていただいた上で、皆さんと一緒に子どもたちの成長を支援していきたいのです。学校からのたよりを親子で一緒に読んだり、一緒に食事をしながら学校の出来事を聞いてみたり、頑張っていて取り組んでいることを褒めてあげたり、反省すべき点は素直に「ごめんなさい」を言うように促したりと。加えて、子どもの成長に関わる学校関係者に「ありがとう」の一言をいただけますととても励みになります。

2学期も子どもたちの成長のために、ともに力を尽くしてまいりましょう。